

グループホーム 八重桜

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		事業所の理念がある。 改めて現在の理念の見直しや再確認をする機会を持ちたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念をホーム内に掲示し、その理念の実現のため年間の目標を立てている。 来年度はホームの年間目標だけでなく個人の目標設定も検討したい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		家族や地域の方の訪問や見学の中で法人の機関紙やホームの新聞を活用し伝えている。家族とも3ヶ月に1度外食会を行っている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩や地域行事に参加した際は挨拶はしているがホームが老健施設の敷地の奥にあるため分かりづらく気軽に立ち寄れるような付き合いは地域の方等限られている。入居者にとっての隣近所は敷地内の老健施設の職員や利用者となっている。 入居者の穏やかな安定した日常が第一なので、入居者一人一人のその時の状況に応じて隣近所や小学校との交流も深めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		日頃の挨拶や地域の行事への参加をしている。(保育園との交流、老健施設との合同での交流会、地域の行事、小学校の行事、近所のゴミ拾い 等) 町内会の清掃や公民館の地域行事等に参加して交流を深めていきたい。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方に提案はしているが現段階ではニーズはない。</p>		<p>今後も地域の方が気軽に相談できるようにコミュニケーションをはかっていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>意義を理解し取り組んでいる。</p>		<p>今後も前年度を見直し継続して取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方が忙しく会議という形では頻度が少ない。また地域の方からも現段階では特に意見が出ていない。</p>		<p>今後も継続してアプローチを続けていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の研修(実習)の受入れをしているので担当者の方の訪問や行き来する機会はある。受入れた実習生とお互いにサービスの質が向上するような交流が出来ている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し学ぶ機会を得ている。また家族にも個別に情報提供している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修や身体拘束廃止委員会等で勉強会をしている。また日頃より職員同士でお互いに声をかけあい一人で抱え込まないような職員同士の関係が出来ている。</p>		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間をかけ確認をしながら説明を行い理解・納得を図っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日頃より何気なく声をかけ要望を聞くようにしている。また玄関に提案箱を置いている。ケアプランの検討時も利用者の意見を聞くようにしている。		今後も継続して利用者の願いや支援して欲しい事を大切にしていきたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族に応じてメールや電話、面会時に報告している。家族向けの新聞を作り毎月郵送している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	外部の相談窓口を紹介したり、請求書にアンケートを同封したり、玄関に提案箱を置いている。ケアプランの説明時等にも意見を聞くようにしている。また面会時もお茶を出したりする際にこまめに声をかけるようにしている。		家族によっては退去後の談話の中で「それでもやはり言いにくい」と言われる家族もあった。今後もそのような家族の心理を認識してコミュニケーションをはかっていきたい。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	日々の介護や運営に関してもスタッフで話し合い反映している。また申し送りノートや日々の業務の中で話し合える場をもっている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入浴拒否の強い利用者については変則的な勤務で対応している。また季節やイベントによって柔軟に対応している。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	最近では求人をしていても応募者がいない事もあるので退職の申し出も早め(1年前)にしている。また退職後ホームを訪問してくれており入居者や家族との交流も継続している。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>入居者の介護(入浴・排泄)へのニーズもあるため職員の男女のバランスは考慮している。また就職後も職場内、職場外の研修に参加する機会がある。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修に参加している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>長期的な視野のもと段階や個々の状況に応じて研修に参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会や研修先でのネットワーク作りを大切にしその後に見学等も含め交流が出来ている。また入居者が以前いた施設との交流もその後も継続して出来ている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスケアに関する研修に参加している。また仕事外でも職員で食事会や懇親会を計画的に行い職員間のコミュニケーションを大切にしている。</p>		<p>課題としては、日によって明確な休憩時間が確保できない時がある。</p>

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会議等で日頃の取り組みや近況を報告し情報を共有している。また職員への研修の機会も得られている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家庭訪問やホームに遊びに来て頂いたりし本人とコミュニケーションをはかり本人の不安を軽減できるようにしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族と本人のこれまでの経過や今後の希望や不安を聴くよう心掛けている。また入居後は日々の様子をこまめに家族に伝えている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にグループホームで出来る事と出来ない事を説明し本人にとってどのようなサービスが適切なのか相談者と一緒に考えるようにしている。(訪問マッサージ 等)		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームからスタッフが訪問(自宅や入居前の施設)したり、ホームに遊びに来て頂いたり可能な限り環境の変化による不安感を取り除くように配慮している。また慣れ親しんだ家具等も持ち込んで頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者との時間を大切に、理念にも「互いに助け合う」ことを掲げている。また日常の中でも感謝の言葉を心掛けていく。入居者の得意分野の事については相談しアドバイスを得て一緒に取り組んだりしている。		今以上に入居者の思いやしたい事を日常の中に取り入れていきたい。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	対応に困った時などは家族に相談し、情報交換しながら一緒に対応し、その結果についても喜怒哀楽を共有している。また日頃より面会に来て頂いた時や食事会の際も家族との関係を築くよう心掛けている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に本人の昔の話を聞いたりして本人と家族の関係の理解に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先も本人の話を聞き一人一人に合わせ行っている。遠方でも里帰りしたり、以前いた施設の行事に参加したり、本人の家族の墓参り等に行っている。その他、昔のかかりつけ医に会いにいったりもしている。遠方の家族には手紙や電話で交流を続けている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人のペースを大切にしているがゆえに入居者同士の関係が希薄な部分もあるが、みんなで体操、歌、お茶、誕生会、等をして関係を築いている。また耳が遠い利用者には挨拶や会話の橋渡しを行っている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先の病院にお見舞いに行ったり、お葬式や、お墓参り行ったりしてこれまでの関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際に「本人の願いや支援して欲しい事」を大切にしている。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人と家族にこれまでの生活歴をシートに記入して頂きその情報を職員で共有している。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出勤時に個人記録や申し送りノートに目を通し、他の職員からも情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要な関係者からも意見を聞き意見やアイデアを集約し介護計画を作成している。また最終的に家族から確認して頂いている。		それぞれの家族や入居者によってはまだ多くの意見やアイデアが得られるのでは…。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じ計画を見直し新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日時間ごとに記録を残している。また気付いた事や職員で共有する大切なことは申し送りノートに記載している。		記録用紙のアセスメントの欄が十分に活用できていない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	柔軟な個別対応…食事形態、緊急の受診や入院、オムツ類の検討、入浴、家族との外出 等 「多機能性」とは？		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校、保育園、地域の子供達との交流会へ参加している。		まだ日常的にも関わる機会を増やせるよう取り組んでいきたい。(公民館行事、保育園児や小学生との交流 等)
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	敷地内の老健施設のカルチャーやリハビリの機器を利用している。他に訪問マッサージや介護用品取り扱い業者への相談等。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまでに地域包括支援センターと協働する機会はなかった。		今後入居者や家族の意向や必要性に応じ検討していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望によるかかりつけ医に受診できるように支援している。受診時はスタッフが付き添いをしている。また遠方の病院については家族に相談し協力を得ている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医への受診や相談もでき関係も築けている。また専門医との勉強会の機会も得られている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体の病院の医師、看護師、また敷地内の老健の医師、看護師からも24時間の相談や対応が得られている。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はこまめに見舞いに行き家族や医療機関から情報を得ている。日頃は必要に応じ連携(空き状況の確認等)している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や病気の進行、状況によって、本人や家族の気持ちも動くのでその時々話している。本人の意志、家族やかかりつけ医の協力が得られる事が大切。ここ数年は行っていない。		今後も終末期に向けての話し合いも継続的に進めていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した入居者の退院の際は職員で話し合い勤務体制を変えて対処した。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	可能な限り情報交換を行っている。(「住み替え」というより「入院」の場合がほとんど)		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。個人情報の取り扱いについては今後も注意したい。		今後も個人情報については継続的に勉強していきたい。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人の意志の確認をして行動するようにしているが、入居者によっては意志の表出が充分できているかどうか判断が難しい場合もある。なるべく意志が叶えられるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診の付き添いや入浴介助等で日によっては全ての希望にそえないこともあるが、出来る限り入居者のペースにあわせるようにしている。		
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望がある入居者には対応している。希望を伝えられない入居者には家族と相談し対応している。また「おしゃれ」については外出で衣類を買いに行く機会もある。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に食べている。食事の準備や片付けはその都度本人の意志を確認しながら行っている。好みや体調に応じてメニューを変え対応している。食器類も個々に応じた物を使っている。		調理の味付け等まだ出来る事もあるかもしれないので今後もけんとうしていく。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	刺身の日にお酒を楽しんだり、おやつを外に買いに行ったりしている。医師の制限がなければ制限していない。		
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別的に排泄パターンに応じてトイレ誘導している。紙パンツから布パンツに移行できた入居者もいる。		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	強要することなく入居者によっては本人のタイミングで朝入浴している場合もある。入居者一人一人に確認をとり入浴している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれで眠れない時は暖かい飲み物を飲んで頂いたりしてゆっくり過ごして頂いている。また充分睡眠がとれなかった時は翌日の午前中に仮眠をとって頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の役割や楽しみがあればそのことについて話をしたり日中の活動に取り入れられている。		入居者によって充分できていない場合もある。より日常の中で出来る事も考えていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っている入居者もあり支払いの際は見守りや一部援助している。		お金を持つ大切さは理解できるが、お金を持つ事による不安やトラブル、また家族による要望などもあり難しい一面もある。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて可能な限り庭や外に散歩に出るようにしている。		今後も意識し機会を増やしていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地元の祭りや遠方の故郷や墓参りとう家族とも相談し個別的に外出している。		今後も意識し機会を増やしていきたい。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じ対応している。手紙の交流もある。		入居者によって出来ている入居者や出来ていない入居者もいる。今後も本人の希望に応じ支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問してもらえるようお茶などを出して心掛けている。また共用部分等も含め好きな場所で過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修や委員会活動に参加して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録や日誌の中で時間ごとに所在の確認をしている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守りの中で危険と思われた場合のみ場所を変えたり保管、管理している。		今後も認知症の進行とともに予期できない事も起こりうるため見守りを継続していきたい。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修がある時は参加している。事故については書類を残し共有している。(夜間ベットサイドのセンサーマット、居室の扉の調整、服薬までの確認の工夫、住居環境の見直し等)		

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練の実施。AEDの使用方法の勉強会。		今後も継続して行えるようにする。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	敷地内老健施設の協力を得られている。		避難訓練を定期的に行っているが更に色々な場合を想定した訓練の充実をはかりたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランの説明時や病気の経過の際に今後起こりうる事について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、晩、入浴前や必要時にバイタルチェックを行い、記録や申し送りを確認し職員間で共有し必要に応じて医療機関に相談し対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量については理解しているが、細かい副作用までについては充分でない部分もある。薬の変更があった場合は症状の変化を注意している。薬の変更時は申し送りノート、薬の説明書、等数か所で確認している。		今後も薬の知識を深めていきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因については理解しており、出来る限り薬に頼らないように運動や水分補給で工夫している。		今後さらに飲食物の工夫等も検討していきたい。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後行いポリデント等も使用している。		状況に応じ定期的に歯科検診を検討していく。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量を主食と副食に分け記録している。水分量は尿量とも比較している。また可能な限り自力で摂取できるよう促している。食事形態も刻んだりし個々に対応している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を入居者、スタッフも行っている。勉強会、委員会でも勉強している(マニュアルもあり)。外部からの感染予防のため張り紙をし注意を促している。		感染予防の徹底。排泄後の手洗い等。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、マスクを行い、食材に配達日、購入日を記入し管理している。まな板も食材に分け使い分け消毒もしている。また毎食後検食を行っている。		職員の検便に関しては検討中
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームは老健敷地内の奥まったところにあり玄関は見えにくい落ち着いた雰囲気である。また新たに玄関アプローチに桜を入居者と植えた。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフの足音や建物内の光に関して配慮している。庭は緑に囲まれ季節感もあり気持ちよく生活できるよう配慮されている。ホーム内にも花や入居者の作品を飾ったりしている。		入居者によってはリビングのソファの座面が低く立ち上がりが困難になってくる事も考えられる。

グループホーム 八重桜

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように各所に椅子を置いている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族には本人の使いやすい物や使い慣れた物を持ってきて頂けるようにご相談している。		入居者の状態の変化により今後も随時居室の環境も検討していきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や天候に応じて窓や換気扇を回し換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなく手すりもあり配慮されている。また居室も広く動きやすい。		居室内から縁側に出る際はセンサーによっても察するようにしているが縁側には段差があるので今後も継続して注意が必要。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	時計やカレンダーを多く配置したり、夜間トイレが分かりやすいように明かりでトイレの扉を照らしたりして部屋の扉に表札を付けたりして工夫している。		今後とも入居者の状態の中で検討していく事が必要。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で園芸をしたり庭で散歩やオヤツや歌を歌ったりして活用している。		

グループホーム 八重桜

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 八重桜

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・入居者主体のケア（可能な限りスタッフの都合や価値観にならないように「本人の願いや支援して欲しい事、本人にとってどうなのか？」という視点を大切にしている）・個別性に応じた柔軟な対応・職員のゆったりとした暖かい雰囲気・開設時から続いている家族への新聞作り・職員間がお互いに気遣いが出来ておりチームワークが良い・家族への報告、連絡、相談もこまめに行っている・家族も協力的である・入居者も思い思いに過ごしている・静かで落ち着いたゆとりのある住環境・近くに海や松林があり自然が豊か・居室も日当たりが良く明るい・緑に囲まれていて季節感が感じられる・食事が美味しい（魚が新鮮）・ゆっくりと時間が流れている・・・等（スタッフからの声より）